

雨宮神父の講演会に参加して

先日みなさまにもメールでお知らせがあった7月8日にアンデレホールで行われた雨宮慧神父による講演会に出席しました。「苦しみ：どこから生まれ、どう対処するのか」と言う題でイザヤ書の「4つの僕の歌」を本当に細かく色々解説していただき感動の数時間でした。すべてをお伝えするのは私の能力では無理があるので次回は11月11日に同じ演題で行われる予定ですので是非一緒にお聞きしたいと思います。

1 箇所だけ最も印象に残った場所

イザヤ書 42章 1 - 4節。

- 1 見よわたしの僕、わたしが支える者を
わたしが選び、喜び迎える者を、
彼の上にわたしの霊は置かれ
彼は国々の裁きを導き出す。
- 2 彼は叫ばず呼ばわず、声を巷に響かせない。
- 3 傷ついた葦を折ることなく
暗くなってゆく灯心を消すこともなく
裁きを導き出して、確かなものとする。
- 4 暗くなることも、傷つき果てることもない
この地に裁きを置くときまでは。
島々は彼の教えを待ち望む。

この時期バビロニアはエルサレム破壊しを第2回の捕囚を行ったが、キュロスが南よりメディア、リディアを征服しバビロニアに迫る勢いであった。異国の地で捕囚されているバビロニア人たちからの迫害への恐怖、バビロニアに捕囚されてるユダヤ人たちは約束の地に住むやるせなさに加え新しい侵略者キュロスへの不安が重なっていた。

そんな不安におののいて将来に希望のない捕囚民に対して神が語りかけている。ここで「裁き」と言う言葉は日本語の“裁かれる”というものではなく“真の秩序”と言う意味に使われている。

“真の秩序”を知らない異国の人々に“真の秩序”を運ぶ重要な役割を捕囚民たちは持っている。自分達が何もしないことで神の義（異国民が幸せになる

秩序)をもたらすことになる。とこの箇所では語られている。

ここで、雨宮神父は「何故こういう考えに至ったのですかね？」とおっしゃいましたが、私も何故こういう論理に至ったのか、現在の中東の様子と比較すると同じ歴史を持った人たちと思えない論理だ。どちらかと言えば日本人や東洋の思想に近いものを感じてしまいました。本当に1語1語の聖書の言葉をていねいに解説くださり、レジメもテキストにできるようなもので感謝です。

また、雨宮神父の出されている毎週送られるZehar（ゼーヘル）と言う聖書朗読の手引きもご紹介いただき早速取り始めました。

11月の2回目の講演会も期待して望みたいと思っています。 阿部園子

(雨宮神父の講演会その2のご案内)

日時：11月11日(土)午後2時～4時

場所：聖アンデレ教会のアンデレホール

会費：500円(当日持参)

申し込みは聖公会教区事務所まで
(03-3433-0987)

締め切りは一週間前ぐらいまで。お友達をお誘い合わせの上ぜひご参加ください。

Big News

森泉先生の翻訳 『ヤコブと放蕩息子』出版決定

数年前ロイド先生訪日のおり、ロイド先生よりご紹介のあった本を森泉先生が翻訳し下さり9月下旬に出版が決定しました。MJM 東京の方々には先生のご好意により次のようなご提案を先生がしてくださいました。

中東出身の神学者

ケネス・ベイリーの主著

『ヤコブと放蕩息子』 (森泉弘次訳・教文館)

ご希望の方にはテイカの割引でお譲りします。

(郵送希望の方は郵送料訳者負担で2割引)

ご希望の方は森泉先生にお知らせ下さい。

【例会とご報告】

9 月例会

9月22日の木曜日に、管区事務所の三鍋先生のお話を聞く会でした。当日は都合のつかない人が多く、30分遅らせて皆様の参加を待ちましたが、出席者は3人(元村、三浦、西牧)でした。折角ご予約を組んでいただいた先生には大変申し訳ないと思いました。

先生は、イギリスの神学校で学ばれた後、オランダやイギリスの港で、世界中を回る貨物船、遠洋航海の漁船、タンカー、客船等の乗組員(国籍は様々だが、賃金の安い国の人たちが一番過酷な労働をしているとのこと)の相談をする牧師というよりもケースワーカーのようなお仕事をされた経験から、私たちには想像もつかない船員の働き、暮らし方についてお話されました。船員の仕事による階級差が大きいこと、どの国の船主かによって船員の労働条件に大変な違いがあること、契約書が読めなくてサインしてしまい、不当な条件の契約で働いている人々を助けることなど、教会の仕事としてされたそうです。お話から、私たちが何気なくいただいているマグロなど、遠洋漁業に従事している方々のご苦労がよくわかりました。英国の教会を中心として、そのような人々の困難に対して援助してきたことを初めて知ることができました。(西牧)

10 月例会

10月5日(水)10:30~12:30pm

聖マーガレット教会 テゼの会

講師：植松功師

出席者：辛島、佐藤、三浦、元村、森泉夫妻、梶山

植松さんのギターにリードされて、いつものように短いフレーズが繰り返されるテゼの歌を歌いながら、植松さんが出会われた方たちの話を伺いました。

今回は辛島さんが赤ちゃんの安希ちゃんを連れての出席。みんなの目は植松さんのほうに半分、安希ちゃんに半分！みんなの気持ちは安希ちゃんが元気に健やかに大きくなるように願っています。

(梶山)

11 月例会

第一回「英語の詩篇を読む、朗唱する」

11月24日(木) 教区事務所会議室

講師：森泉弘次 出席者：近藤、三浦

森泉先生のご指導で詩篇を英語で読む会を開きました。詩篇(テヒリーム、賛美)はヘブライ語聖書のなかで「諸書」(ケトゥヴィ-ム)の先頭に配置されていて礼拝において詠唱されてきました。詩篇の英語を正しい理解と発音で朗読し、素晴らしい信仰思想、信仰感情を表現している現代英語を楽しむ会です。今日は詩篇の1と23を朗読しました。次回は2,3,4,5編です。(三浦)

12 月例会

クリスマス会 (聖バルナバ教会ホールにて)

日時：12月17日 1時30分

出席者：澤司祭、森泉澄江、藤田ご家族、歌代、佐藤光子、佐藤泉、元村、阿部、三浦

祝会の前に阿部さんの司会で澤司祭のお話、光子さんのピアノでクリスマスのお祈りをしました。お食事の後、歌代さんの「嵐の後のプレゼント」を光子さんのピアノをバックに心温まるお話を聞かせてくださいました。そして、光子さんにピアノを弾いて頂、皆でクリスマスキャロルを数曲歌いました。最後にクリスマス献金先を皆で話し合い、今回は新生教会の改修工事代の寄付金とアムダへの献金、とNYのMJMへの献金各5,000円と決めました。今年のクリスマス会は家族の参加の機会も考え土曜日としました。藤田さんご家族1組の参加でしたが来年は他のご家族の方もぜひご参加いただけると嬉しいです。

歌代さんもお子様が多ければ子供向けのクリスマスのお話を用意されると言っておられました。澤司祭はクリスマスの歌をこっそり用意しておられ、最後にこの歌を唄いましょうとバックの中からプリントをだされた時は、なんだか嬉しく思いました。会はなごやかなムードで楽しいひと時を皆で分かち合いました。主に感謝。

(三浦)

1 月例会

2006 年 1 月 27 日 (金)

場所：新生教会

出席者：三浦、森泉夫妻、佐藤光子、法宥牧師

発題者：新生教会牧師 法宥聖親

テーマ：「心のケア パート 2」

担当：佐藤光子

佐藤の開会祈祷後、第 2 回心のケアについて牧師から発題していただく。

題「よりそって生きる」

「主は救われる人々を日々仲間に加え 1 つにされたのである」使徒言行録 2 : 4 7


「世に仕える教会」の姿を探る。教会とは、聖霊によって生まれた祈りの共同体、神に家族、そしてキリストの体である。

教会形成、宣教のあり方は多種多様である。現在の社会に役立つ人間を送り出すことに重点を置いた働きとしては教派の違いを超えて市民のための民主運動、自治活動を推進したイギリス発祥のアイオナ運動、ドイツ発祥のボンポデルシュウイング施設団ベテルはミッドナイトミッション(街娼救済運動)等がある。

教会は船で言えばドック、自動車のガソリンスタンド、(修理工場)ともいえる。重荷を下ろす場所、又は駆け込み寺でもある。

発題後簡単な心理テストをした。

* 配られたカードを用い**アイラブカード**に皆それぞれが記入し性格テストをした。

I  のハートマークの中に愛しているもの (人でも物でも良い) を書き入れる。

例：家族、寿司、猫、等

エコグラム性格テストは 1 から 50 までの質問に回答のチェックを入れ合計点数をグラフに取る、批判的性格、保護的性格、成人度、子供のような自由な発想度順に項目が分かれている。グラフ線の形により、がり勉型、行け行けどんどん型、指導者タイプ、研究者タイプ、ジキルとハイド氏タイプなどに分類される参加者はみな興味津々、法宥牧師も私達と一緒に記入なさり楽しいひと時となった。

主の祈りをもって終了。 (佐藤光子記)

2 月の例会

第 2 回「英語の詩篇を読む、朗唱する」

2 月 2 2 日 (水) 教区事務所会議室にて

講師：森泉弘次 出席者：近藤、元村 三浦

森泉先生のご指導で詩篇を英語で読む会の 2 回目を開きました。

前回の復習とその続きで 2, 3, 4 章を皆で朗唱しました。

テキストは Today's Version を用いています。意識し過ぎている所も多いのですが、思い切った現代訳なので読んだ後一回で記憶されてしまう名訳もあります。2 3 篇冒頭の「われ乏しきことあらし」を「I have everything I need」

と訳した所や、1 篇 3 節の「(神の教えに従う人々は) そのなす所、みな栄えん」を「They succeed in everything they do」と訳した所などです。受け継ぐ英語の動詞 succeed は王位や長子権を継承するが原意で、山上の教えの「柔和な人たちは幸いだ、彼らは地を受け継ぐ」と響きあいます。

詩篇ですから声を出して皆で読むことは、歌を唄う楽しさのようなもので何度も繰り返すことで暗唱してしまうことでしょう。 (三浦)

3 月例会

3 月 2 7 日 阿部宅にて

私の所属教会の大森聖アグネス教会での大斎研修の家庭集いに MJM 東京例会とドッキングして行いました。アグネスの大斎研修では、4 回にわたって聖餐の意味について書かれた「ミサ・イエスを忘れない為に」と言う本を読み進めてゆきました。

私達聖公会やカトリック教会の主日ごとに行われる聖餐の意味を深く考える良い機会になったと思います。

「イエスを忘れない為に」行うミサ。毎主日でも流れに従って行うのではなく、「イエス様を忘れない為に」行いたいと思いました。

(阿部)

4 月例会

4 月 24 日 (月) 教区事務所 会議室にて

講 師：山本祐靖先生

出席者 山本、森泉、芝、歌代、三浦

テーマ：「科学と宗教」・「科学とこころ」
キリスト教の立場から

科学と真正面にぶつかってくるのは、マリアの処女懐妊、キリストの復活などキリスト教の存在理由である。科学的な証明ができないと科学者は言うだろうし、見たことがないものを信じることは難しい。科学では、何事にも疑問を持つことが必須であるが、同じようにクリスチャンも自分の信仰が進化するために、信仰に疑問を投げかける必要がある。何も疑わずに信じなさいというのではなく、常に疑う心を持ちながらも神を信じてくらすことも大切ではないでしょうか。復活なくしてイエスはキリストではないのです。あなたはどう思いますか？

山本先生のお話のレジメをほしい方は、三浦までご連絡ください。(三浦)

5 月例会

5 月 1 9 日 金曜日 1 0 時 3 0 分 ~ 1 2 時

三鷹教会にて

ゲスト：秋貞淑さん(エッセイスト、源氏物語
研究家)

出席者：平池牧師、佐藤、山根、笹原(佐藤さんの姉上)、三鷹教会の方、友人、坂田、娘

テーマ：「過去の断片を拾いつつ」

雨に洗われた木々の葉が美しい朝、こじんまりした、心地よい三鷹教会で今年4月から就任なさった、平池先生のお祈りで始まりました。

お隣の国なのに、韓国の事は私にはあまりにも知らなさ過ぎました。韓国の歴史のなかで、クリスチャンが抗日運動を主導しそれがきっかけとなり、キリスト教が民族の宗教として地位を得るようになったそうです。聖書の発行部数は年間約300万部で世界一位、牧師の説教が次の日の新聞の批判材料にもなるお国柄です。聖日は朝5時から礼拝が始まり、いつでも教会の戸は開かれてあり、誰でも祈りが出来る場が用意されています。私達歴史」の生産

者かつ当事者です。一番大切なことは過去を清算する方法とし忘却ではなく、想起の作業が不可欠です。クリスチャン的方法がある筈です。時間のかかる作業ですが、今までのような回避ではなく、勇気をもって歴史と向き合いたい。クリスチャンとしての歴史観に立つべきだと、世界の平和を祈り願う秋さんは静かに、でも熱っぽく語っていただきました。

予定の時間を1時間すぎても終わりたい会でした。教会は「良心の場」であるという言葉思い起こしたひとときでした。

秋さん、平池先生、場所やいろいろ心を砕いてくださった山根さん、佐藤さんに特別の感謝を申し上げます。

> 主にありて

坂田 稟

6 月例会

6 月 20 日 (火)、 管区事務所会議室にて

マルチン教会の信徒、太田博之さんとルカの福音書19章1節~10節を読みました。子どもたちがよく知っているザアカイさんのお話です。太田さんは、BSF(Bible Sharing Fellowship)という名前で、聖書に親しむ会を広げる活動をしていらっしゃいます。共に聖書を読み、聖書がそれぞれに語りかけて下さったメッセージを分かち合いましょ！ということで、MJMの6月例会に来ていただきましたが、あいにく出席者は元村、宮崎(元村の友人)と、二人でした。(元村)

7 月定例ミーティング

7 月 3 1 日 管区事務所 会議室にて

出席者：森泉夫妻、西牧、三浦、阿部

1年の感想・反省点

- * 昨年度よりクリスマス献金を捧げることができるようになりました。本年度もその方向で献金先など決めたいと思います。クリスマス頃までに元村までご希望をお聞かせ下さい。
- * MJM 東京のオブザーバー的な役割を三鍋先生をお願いしてはという景山さんからの提案がありました。皆さんで考えて行きましょ。
- * 昨年度はクリスマス会の会場費に5,000円の出

費がありました。本年度担当の方が未定の現状では前年度までのようなクリスマス会がもてないかもしれません。担当をやってくださる方を探しています。小さいお子様のいらっしゃる方、お知恵を！ボランティアは三浦（電話かメールで）まで至急ご連絡をください。

- * 今期は教区事務所の会議室を多く使用させて頂きましたので、感謝献金（5000円）することにした。
- * 各例会は出席者が少なく、担当者も講師を迎えるにあたり、多くの方に出席していただきたいが、現状は難しい。
- * 1年に一回の全体ミーティングなので、ここで多くの意見交換ができることがのぞまし。欠席の場合でも電話、FAX、メールなどで、知らせてほしい。

《9月からの例会の日程》

2006年

9月 担当者未定：ボランティアは三浦まで。

10月 10月26日（木）10：30～
管区事務所の会議室にて

森泉先生 「マイモニデス」について
イスラム教原理主義との関連に焦点を
当てて
担当：歌代

11月 植松さんのテゼの会。

12月 クリスマス会
担当者未定：ボランティアは三浦まで。

2007年

1月 森泉先生
第三回 英語で詩篇を読む会

担当：三浦

2月 山本先生をお迎えして。

3月 担当：阿部

4月 担当：西牧

5月 担当：佐藤

6月 担当：元村

7月 総会

TEKNA 担当

クリスマス号：若生

イースター号：芝

8月号：阿部

会計係 元村

まだ、担当の決まっていないところがあります。
どなたか担当をやってくださる方は至急阿部
もしくは三浦までお知らせ下さい。
どうぞご協力をよろしくお願いいたします。

報告

* テクナの発送状況は現在の名簿数53名（内NY
3名には電子メールで。）に発送している。大蔵さ
んを新たに加える。

* 月の例会の案内は電子メールで行っているので登
録者のみの案内になる。案内のほしい方は FAX
などでもご案内するので、三浦まで連絡がほしい。

* 会計報告：2005年度の会計報告書（最後のページ）
8月のテクナに記載する。ご不明な点などあれば、
担当の元村まで連絡を入れてもらう。

【お願い】

会費をお振込みください 年会費 1,500円
（同封の振込用紙で、お振込みください。）

その他、MJM 東京のメンバーとシェアしたい講
演会や話し合いの会がありましたらどうぞご連絡く
ださい。

例会などの通知がほしい方は、三浦まで電話か電子
メールをください。

（MJM 東京連絡先）

三浦万都美 Email: matsumim@hotmail.com